

6) グローバリゼーション部門(部門責任者)

尾崎一郎 (教授・法社会学)

2021年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

2021年度は、情報社会化の進展とグローバル化の進行に伴う日本の国家法のアイデンティティを考察する仕事を中心となった。とりわけ、憲法秩序に関わる仕事は、一線級の憲法学者たちとの座談の機会に恵まれ、極めて得るところが多かった。その延長上で、宗教秩序と法秩序の関係について考察する仕事の依頼も受け、いわゆる政教分離について自分なりに納得のいく原稿を書くことができた。

他方で、前年度から継続している科学研究「相互監視と分散的生成」については、パンデミックの影響で海外調査や国内会合を行えないままであり、停滞していることは否めない。ただし中間考察として同名の論文を兄弟子の退職を記念する『立教法学』に寄稿することができた。

他に、数年前に脱稿済みの法社会学の共著の教科書も無事刊行された。

その他(教育活動ほか)

通常の教育活動としては、学部向け「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」、研究大学院・法科大学院向け「現代法社会論」、「法社会学特別研究」、学部向け「法社会学」講義を担当したほか、全学総合科目「私たちの世界」と大学院共通科目「性差研究入門」にそれぞれ一コマ出講した。さらにセンター科目としてオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」に参加し一コマ出講した。コロナパンデミックの影響もあったが、後期にはハイフレックス講義なども行うことができ、少しだけ学生と対面でコミュニケーションすることができた。

また、藤女子大学の非常勤講師として、前期「法学特講 C-a」を担当した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
法の外来性と受容についての覚え書き	琉大法学 104 号	2021	91-99
基調報告および座談(「日本国憲法のアイデンティティ」)	論究ジュリスト 37 号	2021	152-173
ソーシャルメディア・法・速度—藤代・成原・松尾報告に対する師弟討論—	法社会学 88 号	2022	116-123
相互監視と分散的制裁	立教法学 105 号	2022	46-67

図書

書名	出版社	発行年	単／共
スタンダード法社会学	北大路書房	2022	共